



CLINICALPATH NEWS

Japanese Society for Clinical Pathway
日本クリニカルパス学会

No.
17

発行日
2007年2月15日

in 高知

第2回近森病院パス大会見学会に 参加して

2006.8.4~5

大阪市立総合医療センター 乾 清代美

2006年8月4・5日、高知の近森病院で第2回パス大会見学会が開催されました。以前よりパス大会には大変興味があり、今回部署の主任と2人で参加させていただきました。

診療報酬に地域連携パスが反映され、これから病院として取り組みが進められている時期に、「TKAの連携パス」またベンチマークは大変タイムリーな題材で、今後どのような取り組みが必要なのか示唆することができました。

一日目は、近森理事長の講演「これからの地域医療の私たち - 高知から見てきたこと - 」残念ながら、私たちの到着は理事長の講演の終盤でした。パス委員長高橋先生の講演「パスと地域連携、DPCとの関わり」では、パスの基本・チームで取り組む必要性と、あくまでもTQMのツールであること・近森病院の現状・パス推進の努力以上にトップダウンでDPCが入ったら、平均在院日数がグンと短縮して少し寂しかったことなどなど、また尾知病棟師長には「近森病院のパスの運用」について、実際のパス運用の流れを分かりやすく興味深く聞かせて頂きました。治療を受ける患者に分かりやすい説明書の内容・標準化によるアウトカム設定・見やすい記録の標準化・バリエーション分析を元にPDCAサイクルを繰り返していくことの必要性を再認識しました。

二日目のパス大会は、地域周辺の病院からも大勢参加があり、少々戸惑うくらいの大盛況でした。まず、疾患について説明の後、「急性期のパス」「回復期リハ作成のプロセ

ス」「病棟からリハ転院までの流れ」「回復期リハのパス」の説明があり、急性期と回復期では患者アウトカム設定が大きく違い、回復期ではなかなか標準化されたパスが作りにくい現状があると感じました。次にベンチマークでは、6病院の比較がされ、各病院間の医療内容がはっきりと見え、興味深く聞きました。特に創処置の方法・合併症の予防にばらつきが見られ、創処置の方法では、脳外術後創処置との違いなど、活発な意見交換がなされていました。ベンチマークは、医療内容の根拠や改善点を見つけるために必要な手法であると改めて感じました。その後も「出来高とDPCの比較」「連携の取り組み」「ソーシャルワーカーの取り組み」など各専門部門がその視点から発表されており、病院として組織的に取り組まれていることに感心しました。

今回学び感じたことを当院のパス活動に役立てるよう努力して行きたいと思います。情報交換会では、各専門職がチームで活動されている生の声も聞くことができました。後のおいしいラーメンも忘れません。有意義な時間を提供頂いた、近森病院の皆様には大変感謝いたします。ありがとうございました。

● ● ● ● ●

- ▶ 第5回前橋赤十字病院公開パス大会
- 第5回東北厚生年金病院パス大会見学会
- 第1回済生会宇都宮病院パス大会見学会

in 群馬

第5回前橋赤十字病院公開パス大会 に参加して

2006.9.8～9

佐久総合病院 依田尚美

2006年9月8、9日に開催されました前橋赤十字病院公開パス大会に参加させていただきました。勤務の都合で8日のみの参加となってしまいましたが、私としては初めての公開パス大会への参加で盛りだくさんの内容に、非常に勉強になりました。

今年度クリニカルパスの専任となり、院内のパス管理を中心に活動に行ってきましたが、今回お隣の県でもある群馬県前橋市にて公開パス大会が行われるとの学会からの案内で、是非参加してみたい、当院のパスもベンチマーキングに参加したいと思い、参加させていただくことにしました。まず、驚いたことは、参加されているメンバーの名簿を拝見しいつもMLで発言されているメンバーの皆様の多かったことです。少し気後れしながらの参加となりました。

大会は副院長の池谷先生による「前橋赤十字病院のパスのあゆみ」看護副部長の矢島先生による「パス運用による看護業務の変化」の発表があり、前橋赤十字病院のパスに対する思い、チーム医療として、パスの位置づけの高さが伝わりました。

続いてベンチマーキング「結腸切除術」が開始となりました。6病院から提出された結腸切除について適応、在院日数、術前からの処置、投薬、術後の処置、抗菌薬の投与などについて活発な意見交換がされました。6病院のパスに大きな違いはなかったものの細かな点で少しずつ違いがあり、EBMに基づきクリニカルパスを作成しても施設や医師の考え方等の違いにより差があることがわかりました。しかしその中心には必ず患者がいるということがどの施設のパスをみても感じとれました。

興味深かったのは術前の眠剤投与に関して、転倒転落の問題にまで踏み込んで眠剤を選ぶという提案で、資料をもとに薬剤師の方からの説明もあり、パスを作成する際にはそのような視点を持つことも必要ということで大変参考になりました。

医師を伴わずに参加してしまったために十分な返答ができず申し訳なく思うと共に、司会の池谷先生にはお気遣いをいただき、本当に感謝しております。

公開パス大会では「栄養評価パス」を見学しました。夕方からの開催にも関わらず多くのスタッフの参加もあり、院外出席者を含め活発な討議が交わされていました。

今回の公開パス大会への参加を終え、今年8月に96歳で



亡くなられた当院の名誉総長若月俊一先生が常に言っておられた「どんな田舎に住んでいようとも、第一線の医療を受けられることが必要...」という言葉思い出しました。

今、自分の置かれている立場として、ベンチマーキングに参加することにより、自分たちの行なっている医療についてのレベルを知り、更なる向上をしていくことでこの言葉に少しでも近づけたら...と。

最後に今回公開パス大会参加に際して、暖かく受け入れをしていただいた池谷先生をはじめとする前橋赤十字病院の皆様には深く感謝しております。またこのような機会があれば是非参加させていただきたいと思っています。佐久から前橋まではそう遠くないことがわかりました。

● ● ● ● ●

in 宮城

第5回東北厚生年金病院パス大会 見学会に参加して

2006.10.13

山形県立中央病院 今野美雪

2006年10月13日第5回東北厚生年金病院パス大会見学会が開催されました。私の東北厚生年金病院パス大会への参加は今回で2回目となりました。前回の2004年には、沢山のアドバイスをいただき、パス大会を公開にすることや学会に発表して質向上を図ることなどを実践していくきっかけとなりました。前回に引き続き菅原先生はじめスタッフの皆様の温かい心遣いに感謝、感謝です。

今回は「地域連携パス」がテーマであったため、私は藁をもつかむ思いで参加いたしました。というのも、見学会の翌日に、山形県村山医療圏の当院主導による「第1回大

「腿骨頸部骨折地域連携バス研究会」の開催を予定していたからです。少しでも地域連携に関する具体的な情報や知恵を授かりたいと参加しましたが、期待以上の大きな収穫がありました。

第1部「当院におけるクリニカルバスと地域連携の取り組み」では、まずバス実行委員長の菅原重生先生のお話でした。最も難関である医師間のコンセンサス形成をどのように円滑にすすめるか？という課題には「バス担当チーム話し合い」という体制をとり、あえて他科のバス担当医師がコーディネーター役をするなどの作戦がありました。また、バリエーションは改善のヒントが隠されている「宝の山」ととらえ、有効活用できるようなデータ収集法を確立しておられました。退院調整の遅れからのバリエーションが多いというデータから「入院時スクリーニング」を行い、「退院調整チーム」が入院時から地域との連携に関するシステムを作り出し成果をあげていることは素晴らしく、地域連携バスを推進していく上で大変重要なポイントと受け止めました。

その後の「連携室及び院内見学」においては、各スタッフがそれぞれの立場で地域連携に貢献し、生き生きと誇りを持ってバスの質向上に取り組んでいる姿を肌で感じて感動いたしました。退院調整中の連携先とのカンファレンスが充実していること、その熱心な取り組みに驚き、「地域連携バス」の土台がすでに根付いているという力強さを感じました。また連携室の二人の薬剤師が、外来フロアの一角で予約入院患者と直接面談をして持参薬と服薬状況を聞き、自作のエクセルシートで薬剤管理をし、帳票を印刷して医師、看護師と連携しているシステムは素晴らしいものでした。

第2部「地域連携バスの取り組み」は18時からで、順天堂大学、田代孝雄先生の「竹田総合病院循環器連携バス」、東北厚生年金病院小児科、貴田岡節子先生の「地域連携子ども急病外来」、青梅市立病院神経内科、高橋真冬先生の「患者状態適応型バスシステムによる脳梗塞の地域医療福祉連携」、あおい訪問看護ステーション、小野久恵先生の「訪問看護ステーションが想う連携」と各方面から盛り沢山の充実した内容でした。

さらに特別講演は前橋赤十字病院副院長の池谷俊郎先生の「連携ゼロから連携バス導入まで」では、先生の軽快なユーモア溢れる語り口から具体的なヒントを沢山いただきました。先生には直接質問をさせていただき先着3名限定のキティ達磨ゲット！は思いがけず嬉しいサプライズでした。田代先生からもアドバイスいただき、どうかか当村山医療圏でも地域連携バス第1号が動きそうです。

2年前から更なる進化をとげている東北厚生年金病院の



秘密？は、病院全体でバリエーション対策を行い質の向上を図るという理念のもと、病院横断的なバスと各診療科のバスを、情報を共有しながらチームでとりまとめていくという「これからのチーム医療」すなわち「患者、家族の視点に立った医療」を各スタッフが精一杯実践しているということにあるのではないかと感じ、是非当院にこの熱意とシステムを伝え、今後の活動に繋がたいと思います。沢山の感動をありがとうございました。



in 栃木

第1回済生会宇都宮病院パス大会 見学会に参加して

2006.10.27～28

前橋赤十字病院 樋下田真紀

私は今回初めてパス大会見学会に参加させていただきました。クリニカルパスが何であるかを、やっと理解し始めたばかりの私にとって、全てが初めての経験でした。クリニカルパスに関連する用語の意味を理解するところから始め、先生や先輩方からベンチマーキングの意味・趣旨を学び、実際参加することができ、とても勉強になりました。

看護師になってまだ2年目の私は、クリニカルパスの意味や意義も分からず、日々の業務に追われていました。そんな中、私にとってパスは何となくあるものというくらいの認識でしかありませんでした。今年になって病棟内のパス委員になり、改めて知ったことがとても多くありました。パスがあるのは普通のことと思っていましたが、多くの人々の努力によって作り上げられたものであることが分かりました。

第1回済生会宇都宮病院パス大会見学会に参加させていただき、最先端のパスを学ぶことによって、パスの素晴らしさを改めて実感しました。特に印象に残っているのは、今田光一先生の講演でした。パスってこんなにいいものだったのだと、本当に感動しました。今田先生が講義の中で、パスを使って楽にならなければ、パスを使う意味がないと言っていたのが特に印象に残りました。私の病院では、電子カルテとパスが連動していないため、入力が面倒と感じることが多くありました。しかし、パスがあることで細かい指示を医師に確認しなくても、各部門との連携を取りながら、患者の回復の促進につながれるということは、とても素晴らしいことだと思いました。最先端のパスを知ること、今後パスをどうしていきたいのかが見えてくる気が



がしました。

また、今回気胸手術パスのベンチマーキングに参加させていただきましたが、他の病院で使われているパスを知る機会はありませんでした。とても勉強になりました。実際、今回のパス大会見学会と一緒に参加した医師も、術後の抗生剤について参考にされたようです。

パス大会見学会は、とてもアットホームな雰囲気、初めての経験だった私も緊張せずに参加できました。他病院からの参加者の方も皆熱心で、自分ももっと頑張らなければいけないと感じ、よい刺激になりました。今後もこういった機会を活用し、クリニカルパスに関する知識を深めていきたいと思いました。

● ● ● ● ●

in 熊本

第7回日本クリニカルパス学会 学術集会を終えて

2006.11.17～18

学術集会会長 済生会熊本病院 副島秀久

2006年11月17、18日、熊本市でのパス学会学術集会を無事終了することができました。天候や会場など心配をしておりましたが、大きなトラブル無くスムーズな大会運営ができました。ご協力、ご参加頂いた会員諸氏に対して改めて感謝申し上げますとともに、総会の概要と感想を報告させていただきます。

登録参加総数は事前、当日を含め2722名、これに市民公開講座参加者650名を加え、総参加者数は3372名となりました。シンポジウム8、ワークショップ5、パネルディスカッション1、特別企画1、公開講座1、特別講演・教育講演7、ランチョンセミナー10と盛りだくさんのプログラムでした。発表は一般演題478題、ポスター150題、パス発表136題と多数を数え、熱気の高まった議論が各会場で熱心に行われました。

今回は「クリニカルパスのさらなる進化をめざして」をテーマとし、パスの技術論のみならず、医療の質管理や、DPC、標準化作業、コスト分析など広範な領域まで議論を進める事ができました。ただ、大いに盛り上がった特別企画「全国パス委員長会議」でもあったように、実際には議論だけでなくパスを实践するうえでの様々な組織上、風土上、心理上の障害が大きく横たわっており、これをいかにブレークスルーできるかが今後の重要な課題であろうと思



いました。これからの学術集会でも、日々悩みながら本当に実践している担当者が一同に介して、こういった本に書いていない現場の問題点とその解決の糸口を議論し情報交換することで真に役立つ建設的な提言が出てくるのではと期待しています。

一般演題の内容もかなりレベルが向上し、単なる作成経験やアンケート調査から、実践報告、とくにバリエーション分析をととした医療プロセスの改善へと進んでいるのを実感しました。こうした議論がその組織内部だけに留まることなく、学術集会などで発表され、標準化の議論を経て、より普遍的なものになっていくと思います。

今年は場所を大きく北に移し、10月5、6日に札幌で開催されます。去年の熊本のサブテーマは「馬刺を食べて焼酎飲もう」でしたが、今年はやはり「を食べてビールを飲もう」ですか？ はいろいろあって、迷いますね。北海道の皆様、こちらもよろしくをお願いします。



リレーエッセイ 第11回
パスとの出会いは……人との出会い!?
済生会熊本病院 **堀田 春美**

光栄にも前橋赤十字病院副院長の池谷先生よりリレーエッセイのバトンが回ってきた。いつも暖かいまなざしで見守って応援してくださる…と私が勝手に思いこんでいるのだが、パスで出会った先生のお一人である。

はじめに第7回日本クリニカルパス学会学術集会では多くの皆様に支えていただき、無事にそして盛大に開催することができた。事務局としての大役を果たすことができ、関係者一同、感謝！感謝！である。学会の企画から始まり、当日は会場を走り回り足はパンパン……しかし夜になると久しぶりの皆様との再会に盛り上がり、こんなエネルギーがどこに…ハイテンションの3夜であった。パス専任となった当初、看護の直接業務からはずれ、医療の標準化という医療管理的な役割を担うこととなり、とまどいと不安でいっぱいだった。いくつになっても新しいことへの挑戦は勇気があるが、割り切りと動じない根性はやはり年齢と看護職のおかげ？

当院では2ヶ月に1回パス大会を開催しているが、済生会熊本ではみんながパスをわかっているという大きな勘違いのなかでワークショップをするたびに「アウトカムって何?」「バリエーション?」という質問に何度も説明を繰り返し、データ収集や分析に一緒になって苦労してきた。各診療科のパス大会に関わるごとに新たな出会いがあり、医師や看護師はもちろん、薬剤師や臨床検査技師、医事課員など患者に関わる職種みんながまじめに自分たちの医療現場を振り返り、質の改善に向けて取り組んできた。仕事の上では手短な用件程度の会話である他職種のスタッフも、それぞれの専門的視点での意見や見解の発言の場となると、いつの間にか激しい議論の相手となり、勉強になったしコミュニケーションもはかれるようになった。また意見がわかれた時やあらぬ方向に走り出した時には、副島副院長や松田パス委員長の緊急出動！「困ったときの頼み」で随分と登場していただき支援して頂いた。

それでもパス活動でエネルギー切れになった時



堀田春美 看護師

の栄養ドリンクが、パス学会やパス推進活動で知り合った他施設の先生方やスタッフの皆様であった。パスという言葉で昔から一緒に仕事をしている仲間のように、医療や看護についての会話がなされアドバイスを頂いたり、医療のあるべき姿についての熱い論議に巻き込まれることもしばしばであった。また明日から頑張ろうと思えてくるこの雰囲気はどうしてだろう？多分これが本当のチーム医療かも。パス=チーム医療と言い換えても過言でないことをパスに関わっておられる方々は日々実感しておられるだろう。職種間の壁を越え一丸となって患者さんに最適な治療を願いパスを作る。このチームという意識が病院間の壁を越えた医療に対する姿勢につながり、このような共感となっているのだろう。パスは日本の医療を変えるかもしれないという期待が沸々とわいてくる。

一病棟の看護師では考えもなかった視野の広がりであり貴重な経験をさせていただき、これからの私の財産にもなっていくであろう。日本のパス活動のメッカ熊本とご紹介いただき、大きなプレッシャーの中でこれから目指すパス活動は「記録で医療の質を向上させる！」である。またみんなと一緒に頑張っていこう、でもイノシシのような突進は控えようと加藤神社に初詣。どうぞ皆様、これからもよろしくご指導ください。

つぎのリレーエッセイは、第7回パス学会学術集会の特別企画「パス委員長会議」で念の入ったうち合わせにも関わらず、会場からの続出する発言に圧倒され消化不良に終わった先生方のお一人でもある石川県立中央病院副院長久保実先生にお願いしたいと思います。



事務局から

活動報告

2006年

- 10月13日 第5回東北厚生年金病院パス大会見学会
- 10月21日 薬剤師のためのクリニカルパスセミナー（京都）
- 10月27日・28日第1回済生会宇都宮病院パス大会見学会
- 11月17日・18日第7回日本クリニカルパス学会学術集会（熊本）

今後の活動予定

2007年

- 2月16日（金）第2回箕面市立病院パス大会見学会
- 5月19日（土）第3回福井総合病院パス大会見学会
- 5月26日（土）2007年度クリニカルパス教育セミナー（東京）
- 6月 9日（土）2007年度クリニカルパス教育セミナー（大阪）
- 6月13日（水）第15回済生会熊本病院パス大会見学会
- 6月30日（土）2007年度クリニカルパス教育セミナー（福岡）
- 10月 5日（金）第8回日本クリニカルパス学会学術集会
- 6日（土）「クリニカルパスのさらなる進化を目指して」（ロイトン札幌・北海道厚生年金会館）

第8回 日本クリニカルパス学会学術集会

会 期：平成19年10月5日（金）・6日（土）

会 場：ロイトン札幌

〒060-0001 札幌市中央区北1条西11丁目

北海道厚生年金会館

〒060-0001 札幌市中央区北1条西12丁目

会 長：松波 己

（医療法人 湊仁会 手稲湊仁会病院 院長）

テーマ：継続と先進

～クリニカルパスのさらなる普及のために～

学会参加事前申込：平成19年4月頃開始予定

演題登録申込開始：平成19年4月 3日（火）予定

演題登録申込締切：平成19年6月14日（木）予定

お問い合わせ

第8回日本クリニカルパス学会学術集会 事務局：

医療法人 湊仁会 手稲湊仁会病院 担当：総務課 利根川

〒006-8555 札幌市手稲区前田1条12丁目1番40号

TEL：011-685-2890/FAX：011-685-2959

E-mail：cp8sapporo@kejinkai.or.jp